

大学英語教育に TOEIC を活用することについて

国際学部教授 柏瀬省五

大学英語教育のこれからの方向について

平成15年3月に文部科学省が発表した「英語が使える日本人」の育成のための行動計画案では、日本人に求められている英語力について、「大学を卒業したら仕事で英語が使える」英語力だと述べている。そして、特に大学に向けては、各大学が、仕事で英語が使える人材を育てる観点から、特色ある大学教育支援プログラムを実施するとしている。また、英語の授業の改善について、次のように述べている。

「英語が使える」ようになるためには、文法や語彙などについての知識を持っているというだけではなく、実際にコミュニケーションを目的として、英語を運用する能力が必要である。このため、英語の授業においては、文法訳読中心の指導や教員の一方的な授業ではなく、英語をコミュニケーションの手段として使用する活動を積み重ね、これを通して、語彙や文法などの習熟を図り、「聞く」「話す」「読む」「書く」のコミュニケーション能力の育成を図っていく指導の工夫が必要である。

こうした指導を効果的に行っていくためには、教員は、普段から主に英語で授業を展開しながら、生徒や学生が英語でコミュニケーションを行う場面を多く設定することが重要である。また、外国語指導助手 (ALT) や特別非常勤講師の制度などを活用して、少人数指導や習熟度別指導などを積極的に取り入れるとともに、先進的な英語教育を推進し、優れた授業実践を普及することが求められる。

私は、この授業の改善の方向に全面的に賛成である。1970年代から私が主張し続けてきたものが具体的に表現された思いで、勇気づけられている。また、文部科学省は、このために「先進的な英語教育等の推進」として、学校教育全般において次のような授業改善の方策を実施することを公表している。

○スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール事業の推進

平成17年度までに計100校を目標に、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・

ハイスクールを指定し、高等学校及び中等教育学校における先進的な英語教育を推進し、その成果の普及を図る。(平成14年度；16件 → 平成15年度；50件)

○研究開発学校制度の推進

研究開発学校制度の中で、引き続き、小・中・高等学校等の英語教育に関する教育課程や指導方法などを開発する。

○「特色ある大学教育支援プログラム」の推進

平成15年度から「特色ある大学教育支援プログラム」を実施し、英語教育の改善を含む、大学教育の改善に資する種々の取組のうち特色ある優れたものを選定し、今後の大学教育の改善に活用する。

○英語による特別コースへの参加の促進

外国人留学生を対象として大学で実施されている英語による特別コースへの日本人学生の参加を促す。

私は、大学の英語の授業が改善されるためには、TOEICを大学英語教育に導入することが授業改善の突破口となり効果的であると信ずる。我が宇都宮大学においても、早急にTOEICを活用する準備を開始すべきである。この小論では、宇都宮大学のように、これから大学英語教育にTOEICを導入しようとする大学のために、すでにTOEICを導入している「大学でのTOEIC活用例」を紹介して、大学にTOEICを導入する時のいくつかの問題点をTOEIC導入を推進する観点から論じる。

大学英語教育にTOEICを導入する意義について

大学英語教育にTOEICを導入するとは、大学生のTOEICのスコアが、大学の単位の認定の資料、授業科目の成績評価の資料、クラス編成の資料、留学選抜の資料、選択する授業科目を制限する資料等に使用されることである。例えば、山口大学では、TOEICを受験して、スコアが300点に達したら、「英語基礎 TOEIC 準備 1単位」が認定される。スコアが400点に達したら「英語基礎 1、2」の

単位を併せて最大3単位まで認定され、これらの授業への出席が免除される。スコアが400点に達しない学生は、「英語基礎1、2」の授業への履修が義務づけられ、少なくとも300点に達するまで、繰り返し、授業にでて、自分の英語力を増強することが義務づけられる。要するに、TOEICのスコアを使って、学生の英語力の評価をする。

このような制度の導入には、問題点や批判もある。例えば、TOEICは、口語の英語のうち、リスニングやリーディングの英語力を測定するので、必ずしも大学が目指す英語教育の英語力を全部数値で示すものではないとの指摘がある。その場合には、確かに単位の代替えは適切ではない。

また、例えば、旧態依然とした大学では、大学の英語教育の目標を相変わらず「教養としての英語」にしている場合がある。そんな場合には当然、その授業科目の単位をTOEICで認定するのは無理だ。大学での英語教育の目指すところが、英語によるコミュニケーション力を養成することであれば、TOEICのスコアとの整合性がないから、TOEICを活用することは無理であろう。またあるいは、それぞれの大学が、その大学で教育する学生の英語力にその大学なりの特徴を持たせようと思えば、やはり、「国際的に標準化された英語コミュニケーション力のテスト」= TOEICのスコアでは、その授業の学習成果を測定するには無理がある。この場合もやはり、単位の認定は難しい。例えば、同志社女子大【学芸学部 飯田毅先生の報告】では、英語の授業とTOEICの目指すところは同じでも、「やはりスピーキングやリスニングの能力が高いのであれば、その能力を授業の中でさらに伸ばすことが大切だと思います。」という理由で、単位の認定はしない。

さて、次に、大学教育にTOEICをなんらかの制度として導入する場合には、大学が学生のためにTOEICを容易に受験できる環境を整える必要がある。国立大学の山口大学【6月、8月】においても、私立大学の麗澤大学【4月、8月】においても、TOEIC-IP (=Institutional Program 大学・企業単位の団体受験)の試験を学生に課して、大学側の努力で【可成りの財政的援助をして】受験の機会を保障している。

IP 受験 (=Institutional Program 大学・企業単位の団体受験) には、実は2種類ある。第一は、TOEIC 運営委員会と大学や企業のような受験団体が、直接に、TOEIC 運営委員会の受験制度の団体会員になって、TOEIC 運営委員会から直接試験問題の提供を受け、団体受験会員側、すなわち大学等が、会場、監督者、CD・テープレコーダー等の音声再生機器、問題用紙の配布、解答用紙の回収、発送等の労力を提供して、「自分の労力で試験を実施する方法」と、第二は、「各大学の大学生協が試験を請け負って実施する方法」で、TOEIC 運営委員会と大学生協連合会【東京】が、TOEIC 試験の運営を "College TOEIC" として請け負って、各大学の大学生協が TOEIC 運営委員会から試験問題を受け取って実施する。その信頼性は、直接のものも、大学生協を通す "College TOEIC" も、どちらも同等であると、TOEIC 運営委員会が認めている。最近、国立大学では、岡山大学、東北大学等がこの大学生協が管理運営する TOEIC 受験、すなわち、"College TOEIC" を通して、学部単位で、単位の認定をする TOEIC 受験を学生に課するようになった。一回の受験者数が、800人【東北大学】、700人【岡山大学】を越す盛況である。私立大学でも、"College TOEIC" として、一度に1000人を越す大学【早稲田大学】もでている。(北海道大学は、大学生協と連携して、"TOEFL-ITP" を単位の認定に使うことにした。)

受験費用は、大学生協を通して、"College TOEIC" として受験する場合、3850円である。これは通常受験生負担が普通である。が、私立大学の場合は、大学で負担する例【麗澤大学】、一部を大学が補助している例がよくある。IP の団体受験の場合、受験料は4000円。ただし、団体受験会員への入会費として1団体(大学)で50万円が必要となる。国立大学などでは、この費用の捻出には工夫がある。TOEIC 導入の先進大学である山口大学では、山口大学 TOEIC 実行委員会が実施しているわけだが、その委員長が借金をして50万円を工面し、入会した。その後、受験者が受験料として4000円を納めるが、そのうちの1000円分が試験実施団体の会場校へ試験実施の諸費用として TOEIC 運営委員会から戻ってくる。会場団体の山口大学は、試験の労力を無償(受付料は100円)にして、その残金を積み立てて、入会金の借金返済に充てているという。さすがに経済学部の先生のアイデアではあるが、それにしても涙ぐましい努力だ。他の大学では真似

はできない。最近、やはり College TOEIC を実施している大学生協が有るにも関わらず、TOEIC-IP に入会して直接団体受験を開始した国立大学の鳥取大学では、この入会金は「学長裁量経費」を当てることにしたという。試験監督等の労力は教員が出して実施するという。【鳥取大学 筏津先生談】。それでもこのように、国立大学の法人化を機会に、全国の大学では、英語教育の改革が猛烈な勢いで進行している。

私立大学の同志社女子大では、クラス分けのプレースメントテストとして TOEIC を活用しているが、2000年度の英語英文科の入学生から1年次と2年次に TOEIC を全員受験させ、一年間で、学生の英語力がどのくらい進歩しているか確認することにした。1年生は4月の入学後のオリエンテーション期間中と1月の後半に TOEIC を受験。そして2年次生の1月にもう一度 TOEIC を受験。つまり2年間で3回受験することにした。全員受験の回数を3回にするか4回にするかについてはさまざまな議論があった。TOEIC を全員に受験させるとなると、これに係る経費は決して少なくはない。大学側からも、なぜ英語英文学科全員に受験させるのかと疑問の声が挙がった。実際には教育基金という別の機関からお金を拠出する。また、学校からも予算が出ている。しかし、現代社会学部にも同じようなコースがあるのに、なぜ英語英文学科だけが無料で、現代社会学部の学生は受験料を払わなければいけないのかという議論が常任委員会のレベルでなされた。このように同一の大学内でも不揃いで議論のある大学もある。

では、大学の英語教育に TOEIC を導入して、どのような意義があるだろうか検討しよう。おおざっぱに言って、次の4つが考えられる。

活用その1 学生の英語能力について、客観的評価資料とする

TOEIC は、学生自身の英語能力の客観的評価資料として活用できる。現在の大学生は、英語力について、客観的な評価を持っていない。高校時代の英語学習の成果とて、各高校ごとの相対評価で成績がついてくるが、高校差があって、英語力の一般的な客観評価とは言い難い。全国、いや世界から集まる大学において、学校差、評価方法に差のある高校の成績評価は、大学教育の資料としては使いが

たい。また、大学へ入学後、学生は、大学で英語の授業を受けて、学年末には成績評価がされるわけだが、この学年末の各授業評価は、それぞれの学生がどのようにその授業に対応したかの評価であって、極端な話、評価といっても、担当教員の好みであって、とても英語力を客観的に評価したものとは言い難い。要するに、現在の大学生は、自分自身の英語力について、客観的な評価は持ち合わせていないのである。

その点、TOEIC は、口語英語力の客観評価として、国際的に一応の評価を得ている。英語力の客観的評価テストとして有効である。従って、TOEIC の導入によって、これまでの先生が“印刷英語”を中心にして学生の英語力を評価したものに代わって、学生は、口語を中心にしたより客観的な英語能力の評価を持つことが大切である。TOEIC を学生全員が受験すれば、学生全員が自分自身の口語に関する英語能力を客観的に知ることができる。大学はこれを大いに活用すべきである。

活用その2 学生の英語能力の推移を知る資料とする

2つめの活用は、学生の英語能力の推移を知るための資料となる。英語ができる学生が入学する一方で、もちろん、できない学生もいることはある程度は分かっている。しかし、問題は、学生が入学後に英語能力をどれだけ伸ばしているかだ。われわれ教員は誰もが学生が英語力を伸ばすように授業に全力を挙げている。期待もしている。しかし、個々の学生が本当にどれだけ英語力を伸ばしたかは実のところほとんど把握していない。実際に学生が英語力をどれだけ伸ばしたかといった現実的な問題に、教師はもっと真剣に取り組むべきだ。そのためには、客観的数値で現状の把握が必要だ。特に英語の教師は、自分の授業の目指すもの、授業にかけた時間、学習の内容、学生の伸長度などをもっと客観的データを基に議論すべきだ。そうした実践的なデータを得るためにも TOEIC を活用すべきである。もちろん、すべての授業を TOEIC のスコア上昇のために実施すべきだと言うわけではない。英語の授業といってもいろいろな英語力を目指してよい。TOEIC とは関係のない授業も有って当たり前である。

TOEIC で、学生個人の英語能力の変化を見ていくことには、もう1つの側面がある。つまり、われわれが、学生一人一人の英語力の変化を見るということは、学生一人一人の英語力の伸長、すなわち、学生ひとりひとりの英語の学習の仕方、特に教室外での英語の学習にも注目するということだ。これは、大学ではあまり意識されていない。先生方の間では、「自分の授業から学生がどれだけ学ぶか」という認識が最も強い。もちろんそれは間違いではない。が、私は、大学における英語の学習においては、学生が自分の授業の中でどれだけ学ぶかではなくて、授業外も含めて、いわゆる課外に学生自身が自学自習として、学生が自分でどれだけ英語力を身につけるかに注目すべきであると思う。特に、教員は、学生が自学自習する英語学習のスケジュールの中で、目標をどのように達成してゆくかという過程をトレーナーとして相談する、英語学習のカウンセラー的役割を果たすべきだと思う。そして、そのような関わりの中で最終的に、日本の大学生がどのような学習方法で成績を向上させていくかをきちんとデータで指導することが、今後の大学の英語教育には大いに必要なことだと思う。

活用その3 大学のカリキュラム作成、留学、就職推薦の資料にする

3つめの TOEIC の活用は、大学のカリキュラム作製の一資料とすることだ。学生の客観的な英語力が分かれば、それを資料にさまざまな活用が考えられる。例えば、TOEIC が測る英語力と英語の授業が目指すものとに整合性があれば、その授業の単位の認定に使うことができる。特に、単位の認定をしなくとも、授業の組み立ての資料として使うことも有効だ。留学を希望する学生を推薦したり、選抜したりするときの資料としても有効だ。クラス編成の資料、特に英語の授業のクラス編成には有効な資料として使える。就職の時の資料としても、最近のように、就職に学生の英語力が問われる時代には、有力な資料になる。要するに、大学の教育改革の極めて有効な資料になる。

ただし、TOEIC は英語力のうち、日常生活に必要な口語の英語力を原則としてリスニングとリーディングの2つを物差しとして数値で表すものである。従って、口語英語力の全てを網羅しているものでもない。その意味においては、大学の英語の授業を構成するカリキュラムをこの数値だけで構築することはできない。

しかし、今まで、日本の大学において、学生の口語の英語力を評価する適切な方法を持ち合わせていなかったことを考えれば、今後の大学英語教育において、口語の英語力、すなわち英語によるコミュニケーション能力の養成が強く要請されているから、TOEICのスコアをカリキュラム作成の資料とすることは不可欠であろう。そのためにも、学生全員が、TOEICを受験して、各自のスコアを所持していることがのぞましい。

活用その4 習熟度別クラス編成の資料にする

英語の授業 (listening, speaking 等の授業) において TOEIC のスコアを利用することができる。先行例として、同志社女子大学の例【学芸学部英語英文科助教授 飯田毅先生の説明による】を紹介しよう。学力差の大きい入学生を抱えている私立の大学では、この方法が進んでいる。

「今年度 (2001年度) から入学後のオリエンテーション期間中に1年次生は TOEIC を受験して、この結果を基に1年次のスピーキングとリスニングのクラス編成を行うことにしました。2年次のクラス分けは、1年次生の1月に実施した TOEIC スコアを基にしました。これは、学生の力に応じた授業をしなければいけないという理由です。当大学では、さまざまな入学方式が実施されています。帰国子女枠もありますし、大学入試センター試験を受けて入学する学生、2~3教科のみの一般受験で入ってくる学生もいます。また、公募推薦というかたちで自らを推薦して来る学生、学校推薦を貰ってくる学生、指定校推薦もあります。全部を分類すると11種類の入学方法があります。これだけ入学方法が多いと、入学してくる学生の英語能力もさまざまです。TOEICでも上は900点に近いスコアを持つ学生もいますし、下は恥ずかしい話ですが相当に低いスコアの学生までいます。このような多様な英語能力の学生を集めて、1つのクラスの中で授業をしていくことは大変です。ですから、TOEICをプレイスメントテストとして実施し、リスニングとスピーキングのクラスは TOEIC スコアを基にクラス編成をしたのです。ちなみに、TOEICの実施に関してですが、当日欠席した学生のために予備日を1日設けてあります。最初は「本当に学生は受験してくれるだろうか」と受験状況を内心不安に思ったものでした。というのも、次年度の予備登録の説明会を開いたところ、半分しか出席しないのです。これでは1月の

TOEIC の受験者は少ないのではないかと思っていたのですが、予備日を含め 2 回 TOEIC を実施した最終的な欠席者は 9 名でした。そのときは、学生は押さえるべきところは押さえるのだなと逆に感心したものです。」

確かに、さまざまな入学試験制度を通して入学してくるさまざまな英語力の学生を何の配慮もなく一律の授業で教育するのはよくないことである。しかし、現在の日本の大学では、英語教育から見れば幸いなことに、全国の大学は、いわゆる偏差値による序列化が可成り行き届いていて、特に、国立大学のようなところでは、一部の推薦入試や社会人入学、あるいは高校まで英語はほとんど学習してこなかった一部の留学生のような特殊な入学生に配慮すれば、あとは授業に障害がでるほどのレベル差は感じない。要するに、口語の英語力で言えば、「全体としてできない」だけである。入試の成績のよい学生も悪い学生も五十歩百歩である。従って、特に必要な配慮は、上で示したような学生のための特別クラスを作れば、あとは、授業の工夫で十分乗り切れるものと思う。また、この程度の差は、教師の教育力でカバーすべき範囲であろう。

次に TOEIC を単位の認定に使用している先行例として、国立山口大学における単位認定のための TOEIC 活用について紹介する。山口大学教務部教務課発行の平成14年度共通教育履修案内【1 年次学生向け】によれば、TOEIC に関連する山口大学共通教育科目の履修上の注意は、以下の通り。図を一部変更した。

1. 英語の履修について

(1) 英語のカリキュラムについて

山口大学の英語のカリキュラムは、英語の実用能力の養成を基本として、そのベースの上に特殊な技能の修得を目指すカリキュラムとなっている。その実用能力を測るための 1 つの尺度として、TOEIC を導入し、そのスコアに応じた能力別少人数クラスの授業を開設している。

なお、英語の単位については、TOEIC のスコアにより単位認定を受けることができる。単位認定の申請については、履修中の英語の授業科目の担当教官を通して、証明書類（スコアシート）を添付し、手続きをしてください。

(2) 単位修得の仕組みについて

単位修得の仕組みについては、以下のように示されます。
なお、TOEICの日程等については、掲示等により指示しますので、留意しておいてください。

入学 → TOEIC 準備【包括】 → TOEIC 試験

※ TOEIC 試験については、6月上旬及び8月上旬に実施されます。
後期については、TOEIC 実行委員会実施の試験を受験してください。

(注) TOEIC の受験料【4000円】については、学生の自己負担となっています。

(※) 《総説》 TOEIC 認定400

《基礎》 英語基礎 (1)

英語基礎 (2)

《基礎》 TOEIC 指導1

《展開1》 授業科目群

《展開2》 授業科目群1

① 学生は、前期クォーター1において、指定クラスの TOEIC 準備を履修し、6月上旬の TOEIC 試験を受験すれば、TOEIC 準備【必修】の単位【1単位】を認定します。

② TOEIC のスコアが400点に到達した学生については、TOEIC 認定400の認定を受け、単位認定の申請の際に未修得の基礎の授業科目の単位(最大3単位)をすべて認定します。

③ TOEIC のスコアが300点に到達した学生については、TOEIC 指導の単位

(1単位)を認定し、続いて英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕を履修することになります。

なお、英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕を履修しながら、TOEIC試験を受験することができます。その時点において、TOEICのスコアが400点に到達した学生については、履修中の英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕の単位を認定します。ただし、TOEICのスコアが400点に到達しなかった学生については、引き続き英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕を履修してください。

④ TOEICのスコアが300点に到達しない学生については、スコアをクリアするまで、TOEIC指導の単位を認定することができませんので、繰り返しTOEIC指導を履修してください。なお、TOEIC指導と基礎英語〔1〕及び基礎英語〔2〕については、並行して履修することができます。

⑤ ②に該当する学生については、展開1及び展開2の授業科目から選択して、履修することができます。ただし、授業科目の内容及びレベルを考慮すると、展開1の授業科目から選択して、履修することを薦めます。

⑥ ③に該当する学生のうち、英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕の単位を修得した学生については、展開2の授業科目から選択して、履修することができます。

(3) 授業科目の内容について

◆ TOEIC準備 (1単位)：前期クォーター1

この授業科目については、TOEICの意義を学習し、問題の形式に慣れ、実際に6月上旬に予定しているTOEICの試験を受験することを目的としています。TOEICとは、英語の能力を忠実に反映する試験ですが、TOEICに不案内なまま受験した場合には、低いスコアに終わってしまう傾向にあるので、各自の実力を存分に発揮するためには、適切な準備が必要となります。

この授業科目においては、全学部の学生に統一したテキストを使用します。ま

た、指定された履修クラスを変更することはできません。

◆ TOEIC 指導 (1単位) : 前期クォーター 2 以降

この授業科目については、TOEICにおけるリスニングとリーディングの基礎学力を養成することを目的とします。TOEICのスコアが300点に到達するまで、単位を認定することができませんので、繰り返し履修してください。

この授業科目の内容については、担当教官により、TOEIC対策の強化のポイントに違いがありますので、共通教育シラバスにより履修クラスを選択してください。ただし、履修希望者が多数の場合は、履修クラスを指定されることがあります。

なお、工学部夜間主コースの学生については、工業英語 3 級と TOEIC の 300点と同等に見なし、単位認定を受けることができます。

◆ 英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕(各1単位) : 後期クォーター 1 及び 2

この授業科目については、基礎学力不足の学生のために、文法及び語彙力の養成を重点的な目的としています。後期クォーター授業として、同一の曜日・時限に連続して開設されています。

この授業科目においては、全学部の学生に統一したテキストを使用します。また、指定された履修クラスを変更することはできません。

◆ TOEIC 認定400 (0 単位)

この授業科目については、単位数を設定していませんが、TOEICのスコアが400点に達することにより、基礎の授業科目 (TOEIC 指導+英語基礎〔1〕及び英語基礎〔2〕) の単位をすべて認定します。

◆ 展開1授業科目群 (各 2 単位)

展開 1 の授業科目については、TOEICのスコアが400点に到達した学生のみ履

修することができます。各授業科目の内容については、担当教官により異なり、バラエティに富んだ内容となっていますので、共通教育シラバスを参照しながら、履修してください。

◆展開2 授業科目群 (各2単位)

展開2の授業科目については、TOEICのスコアが400点に到達していない学生においても、基礎の授業科目の単位をすべて修得した学生については、履修することができます。展開2の授業科目については、展開1と比較すると、限られた授業科目数ですが、経済学部及び医学部医学科においては、必修科目に指定された授業科目もあります。

(4) 自習等について

英語の授業科目の単位の認定については、成績により厳密に行われます。英語の能力を高めるためには、授業を受けるだけでなく、自宅学習もまた大切です。それぞれの授業においても、相当量の課題を提示しますので、自宅学習を怠らないように留意してください。

また、図書館やメディア棟の情報処理演習室において、自習ソフト (ALC Net Academy) を利用することができますので、積極的に活用してください。

TOEICのスコアと単位の認定について

TOEICのスコアを何点ならば単位をどのくらい認定するかについては、大いに興味のあるところ。これからTOEICを導入しようとする大学が、先行大学に疑問・質問を集中するところである。今、私の手元にある国立大学・公立大学の例を一部紹介しよう。私立大学の例はこの小論では省略する。

TOEICスコア単位認定実施校(2000年度)の認定方法について

この資料は、財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、すなわち、TOEICを運営している会社が、2001年3月に、全国の大学において、TOEICスコアを単位認定等に活用している事例を一部紹介したものだ。TOEICスコア

の基準は、各校の独自の判断で設定されている。各校の教育政策がスコア基準に反映されているため、大学名は匿名にしてある。参考に紹介する

A大学 国立 理学部・医学部など5学部 公開テスト
786点以上6単位
586点以上786点未満5単位

※入学前・後いずれの取得でも認定される（取得後2年以内に限る）別途、筆記試験・面接試験を実施し、申請後あわせて評価

B大学 国立 理学部・医学部など6学部 公開テスト 780点以上2単位

C大学 国立 工学部・農学部など8学部 公開テスト
850点以上8単位
750点以上850点未満4単位
650点以上750点未満2単位

※入学前・後いずれの取得でも単位取得可

D大学 国立 教養学部 IP・公開テスト 780点以上6単位
700点以上4単位

※ TOEIC 受験が特定科目の単位認定必要要件

E大学 国立 教育学部 公開テスト 600～2単位

F大学 国立 全学 IP・公開テスト 730点以上8単位
(指定科目A)
586点以上4単位(指定科目A)

G大学 国立 経済学部 IP・700点以上2単位(指定科目A)
700点以上2単位(指定科目B)
450点以上1単位(指定科目C)

※1年生はIP受験必須

H大学 国立 経済学部 公開テスト
860点以上8単位
700点以上4単位

※レポートと併せて評価。

I大学 公立 事業構想学部 IP・600点以上は英語授業免除
卒業時500点以上必須
3年進級時450点以上必須
2年進級時380点以上必須

※IP受験必須、2年連続で取得できない場合は退学

次に TOEIC を大学教育に導入するにあたって問題なのが、TOEIC を誰がどのように実施するかである。上で紹介した、先行例は、多くの大学が「公開テスト」の結果【スコア】を活用しているが、公開テストだけの活用では、多くの大学の独自スケジュールや使用目的にはなかなかマッチしない。

そこで、最近では、全国各地の大学が、TOEIC 運営委員会の賛助会員になって、直接団体受験をするか、あるいは、大学生協を通じたカレッジ TOEIC を利用して、単位を認定する大学が増えている。いわゆる "IP 試験" と "College TOEIC" とである。すなわち、各大学【学部でもよい】等が、入会金 50 万円を払って TOEIC 運営委員会の賛助会員になって、試験の会場、労力、管理・運営を提供して試験を実施する方法か、各大学の大学生協に、試験の管理運営労力を全部任せて、すなわち、大学生協が試験を請け負って実施する方法である。TOEIC 運営委員会が提供する試験の問題は、公開テストの場合、毎回オリジナルのものを使うようだが、IP テスト、カレッジ TOEIC では、公開テストの過去問題等を利用して行う。TOEIC 運営委員会ではどの試験のスコアで

もその信頼性は同じであるとしている。従って、スコアは、どのテストのもので
も同様に信頼できる。

それにしても、直接大学が請け負う IP の団体受験は、会場の提供ばかりでな
く、試験監督、集金まで大学が実施することになるので、入会金の50万円の工面
のみならず、先生方の労力の提供など、入学試験を増やしたようなもので、教職
員の、特に英語関係教員の労働強化は避けられない。その点、大学生協が請け負
うカレッジ TOEIC は、大学と大学生協とが連携を密にすれば、最も望ましい方
法と思う。

2002年には、国立大学の岡山大学、北海道大学【単位の認定に、TOEFL-ITP
を利用することにした】、東北大学等が、この大学生協との連携で、TOEIC、ま
たは、TOEFL-ITP の受験環境の整備を推進した。これから、大学・学部単位で
TOEIC 受験の機会を整備し、単位の認定等に活用しようとする大学のために、岡
山大学生協が行ったカレッジ TOEIC のための試験体制の整備の概要を紹介する。

岡山大学生協におけるカレッジ TOEIC 実施運営について

「2003年 学びと成長・外国語コミュニケーション活動セミナー」【2003年10月
12日-13日、会場 東北大学】分科会 B-5 でのセミナーノート【pp.113-114】に
基づき、国立大学の大学生協が TOEIC をどのように工夫・努力して実施してい
るか紹介しよう。報告者は、岡山大学生協職員 広川桐子さんである。

【経緯】

岡山大学生協では、カレッジ TOEIC を、年5回生協が実施・運営しています。
主催は大学の外国語教育センターです。受験者数は2002年度で2500名、今年度は
それを上回る予想です。

まず、岡山大学でカレッジ TOEIC が広がった経緯ですが、岡山大学では、工
学部、環境理工学部が、単位認定に TOEIC のスコアを用いていたことから、大学
生協で全国的にも稀な規模でカレッジ TOEIC の試験を実施しています。今年か
らは経済学部がこれに加わっています。それぞれの学部に TOEIC の実施を推進、
担当する教官がいらっしゃって、日程は学部と外国語教育センターで決定します。

カレッジ TOEIC 実施マニュアルをつくるまでは、TOEIC 運営委員会より配布される「TOEIC -ITP 実施マニュアル」を用い、職員 2 名とパート職員複数名で実施していました。

カセットデッキは大学から貸与され、教室も大学から割り当てられた教室を使用しました。昨年度は、席が隣の受験生とぴったり隣り合わせのこともあったようで、2002年9月に実施したカレッジ TOEIC では、工学部の教授から、「学生が、音が聞き取りにくかったと言っている。生協の使っている音響機器に問題があったのではないか」と指摘があった。その回の平均点が通常よりも20点ほど低かったことや、職員の体制に不備があったことなどの指摘も受けた。これを受けて、生協として、責任もてる TOEIC 試験実施体制をつくり、公開 TOEIC に準ずる試験として生協組合員に安心して利用してもらえるよう改善を加えました。

【マニュアル】

IP テスト実施団体に対して TOEIC 運営委員会より配布されるマニュアルは、最低限度の注意事項や内容であり、教室選定や席数、音響、トラブル発生時の対応などの明確な基準がなかったため、独自に基準を設けることにしました。

また、2002年10月の愛知大学での大学生協連合主催の外コミセミナーで、北海道大学生協より TOEFL-ITP の実施報告があり、学生アルバイトの起用と詳細なマニュアルを作成されていることを知り、岡山大でも同様のマニュアルづくりの検討をしました。カセットデッキは、北大で使用しているもの（公開 TOEIC で使用しているもの）と同じものを10台購入しました。（SONY カセットレコーダー型番 TCM-1390 原価32,304円（税抜））。

生協職員の間で、学生アルバイトが試験監督では厳正な監督ができないのではないかという意見があったので、試験監督は、これまでパートで対応してきましたが、土曜日に数十名の出勤はパートでは難しいため、試験監督のために、「学生アルバイト」を採用することにしました。また、マニュアルを遵守させるためにも、これまでのルーズな体制に慣れてしまっているパートよりは、厳しく教育した「学生アルバイト」の方が厳正にできると判断しました。

このマニュアル作成期間に、岡山大学では公開 TOEIC が実施されたので、下見に来られた TOEIC 運営委員会の方に同行し、教室の選び方や音響の問題などについてアドバイスをいただきました。また、公開 TOEIC を私自身実際に受験して、どのように試験運営がされているかを体験して、参考にさせていただきました。マニュアル作成に当たっては、岡大生協専務、事業連合の担当者にもチェックをしてもらい、矛盾や漏れがないよう何度も検討を重ねました。

【募集・受付】

募集は、通常、前回のカレッジ TOEIC が終了した翌週の水曜日から行っています。募集方法は POP を作成し、生協店舗掲示板（4箇所）と、一定の TOEIC スコアが単位取得に必要な学部に行き、学部掲示板に掲示をお願いしています。大学の教養教務係から各学部案内がまわり、各学部の掲示板に掲示されますが、その応募案内は、A4白黒で目立たないので、私たちが独自に制作した生協作成POP（カラーA3）も掲示します。

受付は、TOEIC 専用申し込み用紙を作成し、使用しています。数学部で単位が認定されるため、受付時には、申し込み用紙に証明写真を貼ってもらい、学生証で学籍番号と本人との照合を行っています。学生証または証明写真を忘れた場合は受付はしません。学生が「後日持ってきます」と言って持って来たためしがないからです。また、岡山大学では、学部生・院生以外に、留学生、研究生、大学教員、大学職員の受験も認めています。

【当日試験運営】

学生アルバイトは、公募し、面接のうえ採用しています。時給は生協で出せる最高の850円。初めてこのアルバイトをする学生には事前の説明会（45分）への出席を義務付けました。この面接と説明会で、カレッジ TOEIC がいかに公平性と正確さが求められる試験かということ、自分勝手な判断で行動はしないこと、ミスは許されないこと、時間と服装を守ることを強く指導しました。

初回は、大学の職員や先生方も見学に来られたので、生協職員総動員で運営しました。職員、アルバイトは一様に緊張し、前日は目を皿のようにしてマニュアルを点検し、声を出して練習し、夜は眠れなかったという職員やアルバイトが続

出しました。2回目以降は経験者を各教室の「責任者」にし、運営もスムーズにいくようになりました。

以上が TOEIC を大学英語教育に導入して、英語教育改革を断行した先行大学の実践例の一部である。翻って、宇都宮大学では、現在、年間3回の「公開 TOEIC」が会場として実施されている。宇都宮大学生協では、年間10回の「カレッジ TOEIC」を実施している。年間13回の TOEIC が実施されていることになる。学生の間にも TOEIC 受験がかなり浸透している。大学側はもっと積極的に TOEIC を大学教育に導入する方策を検討すべきである。そして、「英語のできる宇大生」を育てるべきである。大学英語教育の改革を断行すべきである。

2003年4月に宇都宮大学生協からだされた「カレッジ TOEIC 受験案内チラシ」は、以下の通り。

★カレッジ TOEIC とは

TOEIC の団体受験プログラムのことです。企業や学校単位で受験する TOEIC です。出題形式は TOEIC 公開試験とまったく同じです。正規の認定証は出ませんが、「スコアシート」が発行されます。スコアは正式なものです。就職活動などで TOEIC のスコアを申請することが必要な場合にも活用することも可能です。

★使える英語を身につけたい！という方はぜひ受験をオススメします！

TOEIC の試験問題の形式になれるためにも、大学時代に最低3回以上受験することをオススメしています。

スコアは自分の英語コミュニケーション能力を測る尺度になります。自分なりの学習計画を立てて、その中でカレッジ TOEIC の受験を位置付けてください。3ヶ月～半年に1度は受験して学習のペースメーカーとして活用してください。就職内定後に TOEIC のスコアを求められるケースもありますし、就職後も英語学習を要求される企業・自治体も多くなっています。時間のある大学時代に早めの学習スタートが大事になっています。

★年間試験実施スケジュールです!

主催 宇都宮大学学生サービス室 協力 宇都宮大生協峰店

注意 「第1回と第2回」、「第3回と第4回」、「第5回と第6回」、「第7回と第8回」、「第9回と第10回」は、それぞれ同一試験問題です。受験の際には同一問題での実施回の連続受験は正確なスコアメイクになりにくいのでご注意ください。「偶数回(奇数回)から選んで受験」をオススメします。

第1回 4月23日(水)14:30~17:00 国際学部E棟1253(予定)

→申込締切4月18日(金)

第2回 6月14日(土)9:30~12:00 工学部キャンパス情報工学科(予定)

→申込締切6月6日(金)

第3回7月2日(水)	14:30~17:00	峰キャンパス
第4回8月4日(水)	9:30~12:00	工学部キャンパス
第5回10月29日(水)	14:30~17:00	峰キャンパス
第6回11月8日(土)	9:30~12:00	工学部キャンパス
第7回12月10日(水)	14:30~17:00	峰キャンパス
第8回1月31日(土)	9:30~12:00	工学部キャンパス
第9回2月18日(水)	14:30~17:00	峰キャンパス
第10回3月10日(水)	9:30~12:00	工学部キャンパス

※各回の会場などは、直前に掲示される案内や生協店舗でご確認ください。

なお、年間スケジュールは会場や実施上の都合で変更になる場合があります。

【宇都宮大会場の TOEIC 公開テストのスケジュール案内は削除した】

この小論の作製にあたって参照した参考資料等

(1)「英語が使える日本人」の育成のための行動計画(案)

平成15年3月17日 文部科学省

I.「英語が使える日本人」育成の目標 (p.1)

II.「英語教育改善のためのアクション」(pp.2-3)

(2) 国立大学における TOEIC の活用—山口大学 TOEIC 活用事例
国際コミュニケーションズ・スクール教育事業部 山田 拓 (2001. 5)

(3) 第88回 TOEIC 研究会 TOEIC SEMINAR 「大学におけるさまざまな TOEIC
の活用」報告書【2001. 11. 28 東京 青山 青学会館 TOEIC 運営委員会】

●プレゼンテーション①

「三つの組織がそれぞれ主催。麗澤大学における TOEIC の活用状況」
麗澤大学 外国語学部助教授 望月正道

●プレゼンテーション②

「ホーダレス時代の就職と TOEIC」
山梨学院大学 就職センター課長 土橋久忠

●プレゼンテーション③

「理工学部英語カリキュラムと TOEIC」
立命館大学 理工学部助教授 荒瀬美佐子

(4) 第83回 TOEIC 研究会 TOEIC SEMINAR 「変革期における英語教育 TOEIC
の活用」報告書【2001. 3. 8 大阪 梅田 阪急グランドビル TOEIC 運営委員会】

●プレゼンテーション①

「英語カリキュラム改定と TOEIC 導入の成果」
香川医科大学 医学部教授 芝田征二

●プレゼンテーション②

「5つの利用目的の下、導入された TOEIC」
同志社女子大学 学芸学部英語英文学科助教授 飯田毅

●プレゼンテーション③

「6年間の TOEIC 実施の成果とそこから生まれた新たな展望」
山口大学 経済学部国際経済学科教授 瀧口治

(5) TOEIC スコア単位認定実施校 (2000年度) (参考資料)

財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会 2001年3月

(6) 「2003年 学びと成長・外国語コミュニケーション活動セミナー」セミナー
ノートの「カレッジ TOEIC・TOEFL-ITP 試験運営」(pp.113-114 2003. 10.
12-13)

(7) 宇都宮大学生協峰店【山口】カレッジ TOEIC 受験案内 (2003. 4) チラシ

(2004年1月)